

峠たうげのちち蔵ざう〔大福寺だいふくじと号す、大枝坂おいのさか峠たうげにあり。むかし市盛長者いちもりちやうじやといふもの、一人の娘あり。難産にかゝりて空しくなる。

恵心僧都ゑしんそうづ此所に宿し、持念觀法の時、かの女顛れ出冥土のくるしみを救ひ給へと願ふ。僧都そうづいろくの法門を説給へば、女いふやうもはや苦患をまぬかれたり、我が誓ひに永く産婦の難死を救ふべきなり、地蔵尊を作つてこゝに安置し給へと、言終つて去ぬ。此ゆゑにかの女の塚に生じたる栢樹を伐て地蔵尊を作り、一字の堂を建て安置せり。今の本尊これなり〕